

(平成26年6月作成)

事務事業シート(実施計画事前基礎シート)

(H.26)No.	5011	(H.25)No.	5011
-----------	------	-----------	------

事務事業名	斎場管理費		
担当部局名	担当室名	室長名	
生活環境部	環境対策室	藤野 泰司	

会計区分	事業コード	253501
一般会計	(中事業名)※予算書事業名	
款 衛生費	斎場管理費	
項 保健衛生費	(小事業名)	
目 斎場管理費	斎場管理費	

1. 事務事業の位置付け

総合計画	政 策	3	人が行き交い活力あふれる、安全で快適な暮らし
	基本政策	3	快適な生活環境づくり
	施 策	4	斎場・墓地
	小 施 策	1	斎場
重点施策コード			

2. 事務事業の概要

事業目的(めざす効果)
斎場の適切な維持管理及び運営を行います。
事業内容
斎場利用者が、今後も安心して斎場を利用できるように、施設設備の維持管理及び運営を適切に行います。 また、小動物の収骨を伴う火葬を継続するなど、市民のニーズに応えた事業を行います。

3. 総合計画の目標達成に向けた主な事業の実績・計画

	H.25年度(事業量・取組実績)	H.26年度(事業量・取組計画)	H.27年度(事業計画)	H.28年度(事業計画)	H.29年度(事業計画)
主な事業の実績・計画	<ul style="list-style-type: none"> 火葬(死産児含む) 1,011件 身体の一部・胞衣物 491件 小動物(納骨なし) 1,172件 小動物(納骨あり) 325件 霊安室利用 17件 待合室利用 16件 	<ul style="list-style-type: none"> 火葬(死産児含む) 1,025件 身体の一部・胞衣物 562件 小動物(納骨なし) 577件 小動物(納骨あり) 309件 霊安室利用 8件 待合室利用 13件 火葬業務に支障をきたす恐れのある箇所の修繕(一部) 	<ul style="list-style-type: none"> 施設管理運営業務の長期継続契約 斎場予約システムの更新又は新規購入 火葬業務に支障をきたす恐れのある箇所の修繕 	<ul style="list-style-type: none"> 適切かつ安全な施設の維持管理及び運営 火葬業務に支障をきたす恐れのある箇所の修繕 	<ul style="list-style-type: none"> 適切かつ安全な施設の維持管理及び運営 火葬業務に支障をきたす恐れのある箇所の修繕

	H.25年度(決算見込)	H.26年度(作成時予算額)	H.27年度(計画予算)	H.28年度(計画予算)	H.29年度(計画予算)
①直接事業費	34,095千円	33,886千円	42,000千円	42,000千円	42,000千円
内 国・県支出金					
内 地方債					
内 その他(使用料等)	22,305	21,366	21,300	21,300	21,300
内 一般財源	(0) 11,790	12,520	20,700	20,700	20,700
人 職 員	0.70人	0.70人	0.70人	0.70人	0.70人
数 臨時職員等					
②概算人件費	(0千円) 5,320千円	5,320千円	5,320千円	5,320千円	5,320千円
①+②総事業費	(0千円) 39,415千円	39,206千円	47,320千円	47,320千円	47,320千円

4. 担当室による事務事業の点検(*点検等による成果向上や見直しが困難な事業(法令等による義務的経費、災害復旧等緊急事業など)は点検対象外)

考察(H.25年度の取組評価、課題)	今後の対応方針(課題解決への取組、工夫・改善の内容)
遺族の心情に配慮し、故人の尊厳を傷つけることなく運営することが出来た。	今後とも利用者からの意見を考慮しつつ尊厳ある運営をしていきます。

点検項目	内容(施策達成への貢献内容、連携・協働の実践・検討内容)
(1) 事業内容や取組成果は、総合計画の施策達成に貢献しているか B(いずれかの施策指標達成に貢献又は基本方針達成に貢献)	適正な管理運営をすることにより、快適な生活環境づくりに貢献しています。
(2) 地域づくり組織、市民活動団体等との連携・協働は図れないか 該当しない	

5. 今後の方向性(担当室による内部評価)

【選択肢】 継続(改善)、継続(現行)、継続(拡大)、継続(縮小)、統合検討、休止検討、廃止検討、事業完了(予定含む)	継続(現行)
具体的な見直し内容・検討内容、継続の理由	6. 事務事業の取組に係る主な市の計画
現状は設備のトラブルはなく運営されているが、使用開始10年が経過し耐用年数の経過や老朽化している設備がある。 故人の尊厳を傷つけることなく火葬業務を遂行するためには予算の確保が重要である。	